

みえむ未来創成フォーラム2021

「高等学校での地域に関わる学習」生徒成果物発表会

三重県は、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもっています。この自然を背景に、各地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきました。

三重県総合博物館では、地域の人々が地域の自然と歴史・文化の魅力を学習する機会を提供して、地域に愛着を持つ「人づくり」に取り組んでいます。

今年は、当館が支援している県内高等学校が教育課程内で実施している「地域に関わる学習」を紹介するとともに、生徒の成果物を県民に共有することを目的としています。

日時 令和4年2月22日(火)から3月 6日(日)

(ただし、2月28日(月)は休館日)

会場 三重県総合博物館(津市一身田上津部田3060番地)2階交流展示室

主催 三重県総合博物館

展示を実施する学校



三重県立桑名高等学校



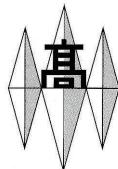
三重県立神戸高等学校



三重県立津高等学校



三重県立松阪高等学校



三重県立伊勢高等学校



三重県立志摩高等学校



三重県立上野高等学校



三重県立名張青峰高等学校

※新型コロナウイルス感染症対策のため、入館時にあたり次のことをお願いします。

- ・ マスクの着用をお願いします。
- ・ 館入口に設置した消毒液での手指消毒や、在館時にはこまめな手洗いをお願いします。
- ・ 発熱や咳等の風邪症状の見られる方の来館をお控えください。

上野高等学校

上野高校普通科「みらい探究F」の取り組みについて

上野高校は探究活動の目標を「地域を支え、地域の発展に貢献する人間としての在り方・生き方を探究する」としています。伊賀市の地方創生事業と連携し、さらに文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、主に「みらい探究F」の時間に活動しています。今回は1年生が作成したポスターの一部と、2年生が伊賀市から依頼を受けて、市を盛り上げるアイデアとして作成したプロジェクション・マッピングを投影した様子の撮影動画を用意しました。

桑名高等学校

「桑高SGPプログラム」の取り組みについて ※SGPIは「Solution for Global Problems」の略

桑名高校は地球規模の社会問題を解決するプロセスを通じて、全ての生徒が、高い志を持ち、様々な課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓く力(課題探究能力)を育成するとともに、地球の未来への先駆者となる科学技術人材を創出する「桑高SGPプログラム」を行なっています。具体的には3年間にわたり地球規模の社会問題に関する課題研究に系統的に取り組み、SDGsの17の目標に対し生徒が主体的に課題を設定し、文系・理系で分けられないグループ編成で解決を目指しています。

神戸高等学校

総合的な探究の時間「鈴鹿学」の取り組みについて

神戸高校では、普通科1、2年生の探究活動として「鈴鹿学」に取り組んでいます。鈴鹿のまちをよりよくするために高校生の視点で課題を見つけ、解決策の提案を目指します。1年次は探究活動の基礎を学ぶ「プレすず」で、鈴鹿のまちについての理解を深めるとともに、探究活動を疑似体験します。1年次12月からは「鈴鹿学」として校外調査等も含めた探究活動を行います。今回は、千代崎海岸に打ち寄せる海洋ゴミについて、地域づくり協議会が年2回行う清掃活動に2年生が参加し、現状調査から見てきたことをポスターにまとめました。

津高等学校

本校は、自主・自律の精神のもと、「探究」を全ての教育活動の核として、探究心を醸成し、創造性、協働性、課題解決能力の育成を目指し、探究学習を展開します。「SS探究活動」の授業で、全ての生徒が3年間にわたり課題研究に取り組みます。探究のための基礎的知識や技能、態度を習得するために本校自作教材『リベラルアーツ』等を活用し、幅広い視野、論理的な文章力、解のない問いに対峙する態度等を自ら体得します。その後、生徒が自らの興味・関心、社会の課題等から課題を設定し、グループでその課題の解決を目指して研究しています。

名張青峰高等学校

「名張市を活発にする！」

3年次選択授業「表現メディアの編集と表現」では、様々なメディアやツールを活用しながらプレゼンテーションを通じて「自らの思いを伝える、表現する力」を身に付けることを目標に学習しています。今年度のテーマを「名張市を活発にする！」とし、授業内で1人ひとりが「活発」とはどんな状態なのかを定義し、自ら課題や現状を調べた上で名張市を活発にするための施策を立案しました。それらをプレゼンテーションにまとめ、名張市長をはじめ、名張市の行政や関係機関皆様へ聞いて頂きました。その概要を展示します。

松阪高等学校

松阪高校では、3年間の探究活動を通して松高力(=課題探究能力)を育成します。1年生では、探究の基本や具体的な探究の進め方を演習形式で学びます。具体的には理科(物理・化学・生物)・数学・社会について学んでいます。例えば、理科(物理)では、科学オリンピック三重大会の競技に挑戦するなど、思考を刺激する授業を行っています。2年生では、自分たち(グループ)でテーマを決め、試行錯誤を繰り返しながら課題研究を行います。3年生では、研究のまとめとして論文の作成やポスター・口頭発表を行っています。

伊勢高等学校

伊勢高校では、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として、1年生の学校設定科目「SS探究I」の授業において、「地域のPBL」の活動を行っています。この活動は、自分たちが育った地域に目を向け、地域の課題を把握すること、地域の課題の解決に向け、自分たちができていることを考えていくことを目的とした活動ですが、この活動を通して、思考力・判断力・表現力、社会性や人間関係形成能力、コミュニケーション能力等の育成を目指し、2年生で実施する「課題研究」における「テーマ設定」「考察」「発表」等につなげていくことも目的としています。今年度も1年生の各グループが、さまざまな地域の課題に向き合い、解決策を提案したポスターを作成しましたが、その中で評価の高かったもの3点を展示します。

※PBLは「Problem Based Learning」または「Project Based Learning」(課題解決学習)の略

志摩高等学校

志摩高校では、総合的な探究の時間で、1年次から3年間、「志摩学」(地域課題解決学習)に取り組んでいます。1年次では「地域について知る」、2年次では「地域について考える」、3年次では「地域について行動する」として、系統的に学習し、探究を深化させます。各学年では、最初に、志摩市役所担当課の講演を聞き、探究テーマを決定します。また、9月に市内各所で行うフィールドワークでは、①自分で見て、聞いて、考えて、行動すること、②地域で活躍する人と出会い、その思いを知ることを大切にしています。